

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由にお持ちください

Vol. **63**
令和5年度
4号



Contents

病院長 年頭挨拶 P2-3

【サイバーナイフ特集】

"切らない"ピンポイント放射線治療 P4-5

▶お仕事紹介コラム(助産師) P6

▶連携医療機関紹介 P7

▶クリスマスコンサート P8



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

さいたま赤十字病院



病院長 年頭挨拶



年頭にあたり、ひとことご挨拶をさせていただきます。

昨年中も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響のもと、特に一昨年3月からは一病棟を閉鎖した上での運営を余儀なくされ、患者さんや地域の医療機関の方々には大変なご迷惑をおかけしておりましたが、昨年11月をもって再開棟をすることができました。その中でも外来、入院や地域の先生方からの紹介の人数についてはコロナ禍以前を超える状況となっており、皆様のご協力の賜物と感謝しております。

■ 重点取り組み事項

日本赤十字社の医療施設にかかる中期事業計画の中で重点取り組み事項とされているものとして、がんゲノム、ロボティクス医療、AI、医療DX（Digital Transformation）などがあります。

ロボット支援下の手術件数は複数の診療科において順調に増加しており、昨年12月には機器の増設を図りました。医療DXの推進についてはマイナンバーカードの受付を各ブロックで行えるように院内ネットワークの改修を行い、**電子処方箋の導入**に向けて準備を行います。

その他の重点取り組み事項として「第8次医療計画への対応」があります。少子高齢化が進み、働き手の不足が言われている2040年問題に向けて、機能分化と連携推進により過不足のない効率的かつ持続可能な医療提供体制構築のため「地域医療構想、働き方改革、医師偏在対策」の三位一体改革での取り組みを更に加速させていなければなりません。そのうちでも、**医師の働き方改革**の実施はいよいよ4月に迫っております。診療科の特性により若干の相違はありますが、救急病態以外での就業時間内での病状説明や複数担当医制、医師の指示に基づく医師以外の医療スタッフによる説明や指導などについて皆様のご理解とご協力の程を宜しく申し上げます。

地域医療連携

当院は外来機能の分化の観点から導入された「紹介受診重点医療機関」の指定を、昨年8月に埼玉県から受けました。当院の場合、医療資源の投入量が多い基準に該当する患者さんの割合が県内の他病院と比較しても多いことから、今まで以上にかかりつけの先生方との連携を推進して参ります。

がん診療

がん診療は、救急・周産期医療に加えて当院のもうひとつの柱としており、昨年4月より化学療法の専門医を迎え更に体制の強化を図っています。

また、放射線治療の体制も強化しました。詳細は本誌の特集「サイバーナイフ」をご覧ください。

■ 災害救護体制の充実

温暖化に代表される環境変化に伴う地球規模での自然災害の多発や、新興感染症の全世界への急速な拡大に対応できるように、災害救護体制の充実は日本赤十字社のみならずグローバルな課題と認識されています。

昨年は関東大震災から100年を迎える年でありましたが、本年は元日から大規模な災害が発生しました。当院としても初日からDMATの編制準備、埼玉県のDMAT調整本部への職員派遣、1月3日から日本赤十字社石川県支部へ災害医療コーディネーターの派遣、1月17日より救護班の派遣をすでに行い、2月からは被災病院への看護師派遣を行います。この災害は長期化が予想されますが、日本赤十字社、**災害拠点病院の責務**として被災地への支援を続けて参ります。

令和6年能登半島地震災害における当院の対応について

※予定を含む

【日赤災害医療コーディネートチーム】

1月 3日 - 7日 医師1名 事務1名派遣
 3日 - 11日 医師1名派遣
 14日 - 21日 医師1名派遣
 2月 2日 - 11日 医師2名 事務2名派遣

【被災医療機関への看護師派遣】

2月から3月にかけて、計12名派遣予定
 <派遣先>
 公立穴水総合病院、市立輪島病院、
 公立宇出津総合病院

【救護班】

1月18日 - 22日 第1班派遣
 2月 8日 - 12日 第2班派遣
 21日 - 25日 第3班派遣

救護班の編成



医師2名



薬剤師1名



看護師3名



事務3名

計9名



(左)
 当院救護班への支部長（埼玉県知事）激励の様子
 (中央上)
 避難所で巡回診療を行う当院医師
 (中央下)
 避難所で処方を行う当院薬剤師
 (右上)
 避難所に段ボールベッドを設置

■ 創立90周年

当院が開院したのは昭和9年であり、本年は90周年を迎えます。創立記念日に合わせて**7月3日（水）**は**休診日**となりますのでお間違えのないように宜しくお願いします。

さて本年は、十干十二支でいえば甲辰（きのえたつ）の年となります。甲とは「甲乙丙丁～癸」の始まりであり、物事の始まりととらえることができ、辰は発芽した植物がしっかりとした形になる、勢いと大きな力、成功ととらえることができ、この二つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられます。

改めて跳躍の年となるように祈念して新年の挨拶にかえさせていただきます。

院長 清田 和也



放射線治療科

近年、放射線治療の効果は飛躍的に高まり、がん治療における患者さんの選択肢も増えました。そこで今回は当院の放射線治療についてご紹介します。

放射線治療科 部長 江里口 貴久

「サイバーナイフ」

“切らない”ピンポイント放射線治療

「定位照射」（いわゆるピンポイント照射）に最も適した性能を持つのがサイバーナイフです。照射装置をロボットアームに据え付けることで、さまざまな方向から多数の放射線を照射し、ピンポイントに放射線を集中させることができます。また、照射直前や照射中に位置確認できる画像照合装置が付いています。照合の結果、病変が想定された位置から動いた場合は、自動的に照射位置を修正し、本来の位置に照射します。サイバーナイフは照射中、常に位置確認、修正を繰り返していますので、病変の位置が変わっても狙いを外すことはありません。肺や肝臓のような呼吸性移動のある臓器内の病変でも呼吸の動きに合わせて自動追尾照射ができますので、照射範囲が狭く設定でき、他の治療機のように広く照射する必要はありません。

サイバーナイフが得意な病気～根治から緩和まで～

早期肺がん

前立腺がん

肝細胞がん

少数個の転移（肺・肝・骨・リンパ節）

脳転移（10個程度まで）

進行がんの症状緩和

ロボットアーム

- どんな方向からでも腫瘍をピンポイントで狙い打ち！



ロボット型放射線治療装置「サイバーナイフ M6」

治療用寝台

- 追尾と同時に自動で動く

放射線治療のいま

近年の放射線治療における大きな進歩の一つは、「定位照射」が可能になったことです。1～5回の少ない回数で大線量を照射する方法で、画像診断の進歩と照射機器の精度向上により実現しました。病変が明確に特定され、正確に照射できれば、圧倒的な大線量で病変を狙い撃ちできます。腫瘍近傍の正常組織は障害を受けますが、限られた範囲であれば臨床的に問題になることはありません。一例として早期肺がんでは照射された病巣の制御率は、従来の照射が60%程度なのに対し、定位照射では90%程度です。また、照射範囲はかなり狭くなりますので、照射後の呼吸苦などの症状を伴うような重い放射線性肺臓炎をおこすことはほとんどありません。

放射線治療は手術と異なり外来で治療を行うことができ、痛みもなく、心臓病や糖尿病などがあっても照射が可能です。



↑放射線治療装置

ターゲットロケティングシステム

- ミリ単位のスレを見つけて追尾！



治療の流れ

部位に応じた
診療科を受診

肺がん→呼吸器内科 肝がん→消化器内科など

ただし、部位によっては事前に「照射用マーカー（微小な金属）」の留置が必要になります

▽
放射線治療科
を受診

治療についての説明を行ったうえで、治療の予定を組みます

▽
治療計画 CT

治療計画を立てるためのCTを治療時の体位で撮影します

▽
治療開始

回数は部位にもよりますが、1～5回程度です。

1回の治療時間は20～40分程度です

リニアック

- 高エネルギーのX線を使って
腫瘍の大きさに合わせた形の
ビームを照射



放射線治療科のスタッフ
(筆者 後列右から2番目)

助産師 (midwife)

当院は総合周産期母子医療センターとして、隣接する埼玉県立小児医療センターとの連携により集中的なケアが必要な母児のケアを行っています。

今回は、母児の健康を支えるうえで重要な役割を担っている助産師についてご紹介します。

■助産師の業務

助産師＝産婆さんというイメージがある方もいらっしゃると思いますが、当院の助産師の業務内容は妊娠中から産後まで多岐にわたります。妊婦さんからの訴えだけでなく、私たちの感じとる些細な変化の気づきが分娩の急速な進行や母児の状態変化への対応につながるため、常に緊張感をもち仕事をしています。また、思いがけない出来事で不安を抱えている妊婦さんにできるだけ安心してもらい、安全なケアができるようお話を聞き、落ち着いて接するよう心がけています。

当院では昨年度より、周産期フロアにある手術分娩室でも帝王切開術を行うようになりました。それに伴い、助産師も手術の器械出し看護師としての直接介助をはじめとした手術の補佐など、新たな役割も担うようになりました。



職員紹介

私は助産師として働きはじめてから4年目になり、現在はMFICU(母体胎児集中治療室)で働いています。ママと赤ちゃんのケアを行う病棟であるMFICUには、かかりつけの妊婦さんだけでなく切迫早産や合併症等により他院から救急車で搬送された方も入院しています。

私はこれまで外来での妊婦健診や助産師外来、分娩介助、生まれた赤ちゃんのケアや産後のママのケア、帝王切開術での器械出しなど助産師として様々な分野で幅広い時期の母児のケアを行ってきました。また、産婦人科一般病棟である5階西病棟での勤務時には、ママと一緒に育児の練習をしたり、授乳や搾乳について悩んだり、産後のケアの難しさや大切さも学ばせていただきました。患者さんと退院後に外来でお会いしたり、嬉しいことに次子を妊娠され外来でお声がけいただいた際には、続けていてよかったと切に思います。

最近は病棟リーダーとしての役割や、後輩の育成なども担うようになり責任も大きいですが、新しい経験も多く充実した日々を過ごしています。多忙な日々のなかで母児に親身になって寄り添い、優しくあたたかい助産ケアを行うことを目指しています。

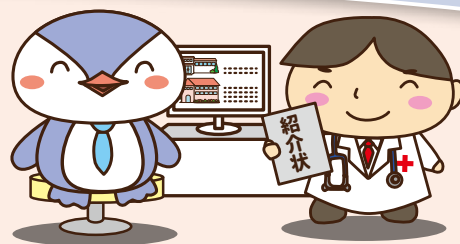


MFICU 助産師 鈴木 郁



連携医療機関紹介

当院では、地域医療支援病院としての責務を果たすべく、地域のかかりつけ医の先生方からの紹介患者さんに対し、専門的な治療や救急医療の提供を行っております。ここでは、当院の心強いパートナーである医療機関をご紹介します。



クリニック (かかりつけ医)

医療法人藤友会 加藤整形外科



当院はスポーツ整形外科を中心に、変形性関節症、脊椎疾患等の一般整形外科にも幅広く対応しており、特にスポーツ障害では早期復帰のため積極的な運動療法を行う等、スポーツ休止期間を極力短くするよう取り組んでいます。

新規診療科の開設

昨年より総合内科・漢方外来を開設しました。これによりさらに幅広い疾患に対応できる体制が整いました。

さいたま赤十字病院との連携

手術の必要な症例については、さいたま赤十字病院に多くの患者さんを引き受けていただき、退院後のリハビリは当院で引き続き継続しつつ、経過観察など緊密に連携を取らせていただいています。

院長：阿部 良二

住所：さいたま市浦和区常盤 10-9-20

TEL：048-825-3875

診療科：整形外科、スポーツ整形外科

漢方専門医外来・スポーツ漢方・総合内科

休診日：木曜日 / 日曜日 / 祝日

URL：https://katoseikei.com/



地域みなさんへ

整形外科に限らず、何か困ったことがありましたら気軽に相談ください。適切な病院、診療所をご紹介します。

連携病院 医療法人宇治病院



当院は開設 100 年を超え親子3代に渡って地域医療を続けています。

日常の診療をはじめ消化器内視鏡検査治療、特別外来として循環器・糖尿病・整形外科があります。又、事業所健康診断・各種診断書発行業務などを行っております。入院は慢性期病床とターミナルケアです。

さいたま赤十字病院との連携

さいたま赤十字病院の存在は当院にとって重要で、心強い関係にあります。全診療科目に対応して頂き、又、医師・看護師及び連携室の方々との顔の見える関係を築けている為、スムーズに進みます。患者さんを紹介するときも安心してお任せできます。

院長：宇治 元

住所：さいたま市大宮区宮町 2-90

TEL：048-641-8531

診療科：内科 / 外科 / 消化器科 / 肛門科 / 整形外科

循環器内科 / 糖尿病内科

休診日：水・土午後 / 日曜日 / 祝日 / 創立記念日
(4月8日)

URL：https://ujihospital.ec-net.jp/



地域みなさんへ

今後も病々連携を保ちながら、よりよい地域医療を続けていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



クリスマスコンサート

当院では入院または通院中の患者さんやそのご家族を対象に、心の安らぎや潤いをお届けすることを目的とした院内コンサートを年2回開催しております。

今回は令和5年12月22日(金)当院2階多目的ホールにて、「クリスマスコンサート」を実施いたしました。会では、trio comme moi(トリオ コムモア)の3名にクリスマスソングを中心に演奏いただきました。ヴァイオリンとクラリネットのアンサンブルで演奏いただいた曲目は、どれも美しい音色でした。また、クリスマスソング以外ではご要望の多かった「情熱大陸」を演奏いただき一段と盛り上がりしました。



ご来場された方からは「会場にクリスマスの飾りつけもあり、華やかな雰囲気でもとても楽しめた」、「本格的な演奏を目の前で聴くことができ、良い機会に立ち会えた」等の明るい感想をいただきました。

これからも皆様にお楽しみいただけるコンサート事業を続けてまいります。

救護社会課 田中 祥貴

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。